

聖光アカデミア 第2回セミナー

地球温暖化対策とエネルギー政策（国際機関で働く方法）

今回はエネルギーや地球環境の問題を取り上げます。アフガニスタンやイランなど中東はますます不安定、かつ予測不可能な状態にあります。未だ石油の90%を中東に依存する日本にとって他人事ではありません。太陽光や風力、原子力など自前のエネルギーを増やせば良いのですがなかなか上手くいきません。他方最近の異常気象の原因と言われる地球の温暖化は明らかに人間活動による二酸化炭素の排出増加が原因であることは自明であるという国連のレポートが出ましたが、これをめぐっては先進国と新興国の足並みが合いません。新型コロナ禍で各国は自国民の安全を第一に考えるのはやむを得ないにせよ、それでは世界全体のウイルス感染を抑えられないことは明らかです。同じように地球環境問題や中東のテロや核兵器拡散という国際問題はナショナリズムでは解決できません。どうすれば良いのか、世界中の人がそれぞれの国境に囚われた発想をやめグローバルアイデンティティを持つしかない。「サピエンス全史」の著者ユバル・ハラリは言います。国際機関はそこでなにかができるのか皆様とご一緒に考えましょう。

また将来、国際機関で働く可能性と方法についても、聖光生の皆さんのお話します。

2021年8月17日

田中伸男（元国際エネルギー機関 IEA(International Energy Agency) 事務局長、
瑞宝重光章（3.4.29））（5期生）

経歴

1968年1月聖光学院高等学校を卒業後、同4月に東京大学教養学部文科一類に入学し、1970年4月同経済学部に進学し、1972年3月に卒業後、1973年に通商産業省（現経済産業省）入省。その後同省の要職を歴任。また、1979年アメリカ Case Western Reserve University で MBA(Master of Business Administration, 経営学修士) を取得し、1982年からアメリカ合衆国日本国大使館で書記官を務める。1989年より OECD(Organization for Economic Co-operation and Development) 科学技術工業局次長に着任、1992年に科学技術工業局長に就任。2007年9月国際エネルギー機関 (IEA; International Energy Agency) 事務局長。2011年8月に事務局長退任後、日本エネルギー経済研究所特別顧問、笹川平和財団理事長、東京大学公共政策大学院連携研究部教授。